

輝け！シン尾花沢中

第196号

令和8年

3月4日

まちのさかえは 国の富 はたらくものの よろこびを

「ありがとう」が何よりの喜び～保育園ボランティア①～

2月24日（火）、20名ほどの尾中生がおもだか保育園とひまわり保育園にボランティアに行きました。お店屋さんごっこやお絵描き、粘土遊びなど園児と一緒に遊ぶ活動に加え、折り紙でのチェーンづくりやおもちゃの消毒など地道な作業も行ってきました。

今号では、おもだか保育園のボランティアに参加した生徒の感想を紹介します。

西塚 穂香さん（2年）：子供たちが明るく接してくれてうれしかったです。また、このような機会があれば参加したいと思いました。

三瓶 耀斗さん（1年）：ボランティアをして、学校であったもやもやが晴れてとても楽な気持ちになりました。園児からは「ちっちゃい中学生」と言われましたが、優しく接してくれてうれしかったです。

木内 紗希さん（2年）：ボランティアをして子供たちと触れ合ういい機会になりました。お店屋さんごっこの相手をして仲良くできたと思います。最初は緊張したけれど、子供たちから話しかけてくれてとてもうれしかったです。

山口 心晴さん（2年）：自分が園児だった時、中学生の人たちに遊んでもらって楽しかったことを思いだし、今日かかわった子供たちも「そう思ってくれたらいいな」と思いました。子供たちは、会ったばかりでも、親しみをもって接してくれて、とてもうれしかったです。今日の体験を小さい子供とかかわるときに生かしていきたいです。

沼澤 明希さん（2年）：印象に残っていることは、最初は緊張して遠くから見ている子が、遊びを通して少しずつ心を開いてくれて、最後に「またきてね」と笑顔で声をかけてくれたことです。子供一人ひとりに異なる個性があることを肌で感じ、素直な反応に自分も笑顔になりました。この経験から、子供の目線に立ってコミュニケーションをとることの大切さを学びました。

小野 永和さん（3年）：子供と遊ぶと、時間が経つのを忘れてしまいます。園児たちとのコミュニケーションがとても大切であることに気がきました。互いに楽しむことで「信頼が増していくのだな」と思いました。今後もボランティアを通してたくさんの人とのかかわりを大切にしていきたいです。

園児との交流が、癒やしの時間にもなったようです。次回は、ひまわり保育園に行った尾中生の振り返りを紹介します。



【文責：校長 工藤雅史】